

# 大分大学教職大学院

## ホームカミングデイ創発の集い：「教育実践の探究」で修了生支援

(事業名：教職大学院セミナー「教職大学院での学びと学校との接続」)

### 教職大学院セミナーの目的：

修了生アンケートの中に見られる「修了後の継続学修」へのニーズに応えるべく、令和5年度より新たに教職大学院セミナーをホームカミングデイに組み込んで実施した。令和7年度は、修了生の所属校での取組を題材に、学界で活躍する外部講師から「最新の知見に基づく講評」をいただきながら、グループディスカッションによる省察的で深い学びに誘うことを目的とした。

### セミナーの内容：

本セミナーは2本の報告と講評、グループディスカッションという構成とした。①現職修了生の若杉健志教頭（大分市立豊府小学校）より大規模校における学年主任会を活用した学校組織づくり、②学卒修了生の松村優吾教諭・岡田侑樹教諭（共に中津市立小楠小学校）より新任教師が学級経営（教科指導・特別活動）の中で経験した悩み・喜び等の振り返りの報告であった。それを受けて、諏訪英広教授（川崎医療福祉大学）と白松賢教授（愛媛大学）から講評が行われた。グループディスカッションは学卒院生が大いに刺激を受けて、講師との豊かな質疑応答が繰り広げられた。

### 日程・参加者等：

令和7年7月26日(土)14:00～17:00に実施し、参加者は51名、うち本学大学院関係者35名、修了生・その他16名であった。

### 成果と課題：

報告を修了生に、講評を外部講師に委ねることで、在学生及び修了生の双方の学修を深化させることができた。特に、今回は在学生が大いに刺激を受けて、日常の疑問を修了生・講師にぶつけることで活気ある議論となった。



(左)若杉健志教頭、(右)岡田侑樹教諭(松村優吾教諭)の報告の様子。どちらの報告も、教職大学院時代の学修を生かした教育実践となっており、その活躍ぶりと同時に、苦悩や喜びを抱えての懸命な姿勢に心を打たれた。

(左)諏訪英広教授、(右)白松賢教授の講評の様子。諏訪教授には学校経営の視点で、白松教授には生徒理解・特別活動の視点で、コメントをもらった。コメントの最後には、上記実践から導かれるグループディスカッションの視点が示され、議論の方向付けがなされた。



グループディスカッションで交わされた感想や意見を、登壇者に投げかける双方向の議論の時間も設けた。特に、現役の学卒院生が実習と研究(理論と実践)の往還を、自分の中でどう再構成すればよいかという悩みを抱えながらの質問が印象に残った。

本研修は教職員支援機構の「NITS・教職大学院等コラボ研修プログラム支援事業」に採択されて実施したものである。